

わたしのくらし 地域の歴史⑫ ほたる祭がはじまった頃

—平成25年6月15日(土)に第48回ほたる祭が約3万5千人の人出で盛大に開催されました。ほたる祭は昭和41年6月11日・12日に熊牛町会と鍋二町会の共催で第1回が行われ、以後、熊牛町会単独で実施され、福生を代表するまつりに発展してきました。今回はほたる祭が始まった頃のことを小林菊三さん(当時、熊牛町会副会長・第1回ほたる祭実行委員長)にうかがいました。—

ほたるが乱舞する玉川上水

昭和40年の春は異常濁水に悩まされ、玉川上水の清流も水深30センチそこそこの流れだったようです。その年の6月初旬から、玉川上水の牛浜橋から青梅橋にかけて、かつて見たことのない程のホタルが大発生し、近所の民家の内部屋や遠くは青梅線の東側まで乱舞していました。

地元、熊牛町会ではこの光景を多くの人に見てほしい、また、福生をホタルの飛び交う美しいまちとしてPRしていきたい、との願いからほたる祭を実施することになりました。なにもかもが初めての経験

町会長の故小林暢吉さんを中心

に、実行委員長を小林菊三さんが担い、故荻野米治さん、故小島秀雄さんらとともに各種団体との調整や様々な準備にあたりました。しかし、皆さん素人であり、かつ初めてのお祭りのため、その実現には非常に苦労されました。

小林菊三さんは当時、横田基地に勤務され、日本人従業員福利厚生部の娯楽部長をしていたこともあり、また持ち前の行動力で精力的に動いたそうです。

例えば、ほたる通りに連なる露天商が祭りに華を添えています。その交渉は横田基地での日米親善さくら祭等の行事の経験が役に立ちました。

ポスターを作るにもひと苦労で



第1回のポスター(第30回ほたる祭ポスター展示から)

す。図柄は小林菊三さんが都内の書店まで足を運び、題材となる絵本を探したそうです。そして、自らデザインをしたポスターが貼り出されました。

警備計画などの書類も警察の指導を仰ぎ、一から作っていました。その書類はその後も長いこと使われていたそうです。

第1回は鍋二町会と合同で開催されました。これはホタルが下流の福生橋や山王橋でも見られ、初めてのことであり、また小林菊三さんと鍋二町会副会長の関米吉さんが懇意にしていたことから、小林菊三さんが声をかけたそうです。

熊牛町会会員が裏方で奔走 第1回ほたる祭は昭和41年6月11日・12日に玉川上水青梅橋を中心に開催されました。

その運営は町会会員の熱意に支えられていました。特に熊牛町会会員は、準備はもとより、まつり当日の来場者の安全を第一に、交通整理や警備、駐車場整理等々、裏方の仕事に走りまわりました。鍋二町会の役員も受付等役割を担ったそうです。第2回以降は熊牛町会単独の開催となり、今日に至っています。

青梅橋と牛浜橋回遊計画

当時の玉川上水牛浜橋と青梅橋の間には、現在のようにフェンスやブロック塀はなく、上水右岸は、石垣の上を通行ができました。左岸は畑地だったようです。

小林菊三さんたちは、のちに上水左岸も通行できるようにして青梅



橋から牛浜橋を渡り、また青梅橋にぐるりと回れるような遊歩道ができればいいと考えたそうです。そのためには地権者の理解などが必要でしたが、残念ながら、この計画は実現しませんでした。

ほたる祭関連年表

- 昭和41年6月 第1回ほたる祭開催
- 昭和43年4月 福生ホタル養殖研究会発足(会員宅等で養殖をはじめ)
- 昭和47年6月 第7回(ホタル小唄発表)
- 昭和48年3月 ほたる公園開設(市)
- 平成3年5月 福生ホタル養殖研究会を福生ホタル研究会に改称
- 平成5年4月 ほたる公園改修(市)
- 平成6年6月 第29回(絵画展はじまる。露天商から市民の模擬店へ)

参考文献

- 『ほたる祭』の生いたちとつら話」小林菊三 (福生市民新聞第4号 昭和47年6月15日)
- 「夏の風物詩『福生ほたる祭』」市川重一 (『多摩川』第102号 とうきょう環境浄化財団 平成16年6月1日)